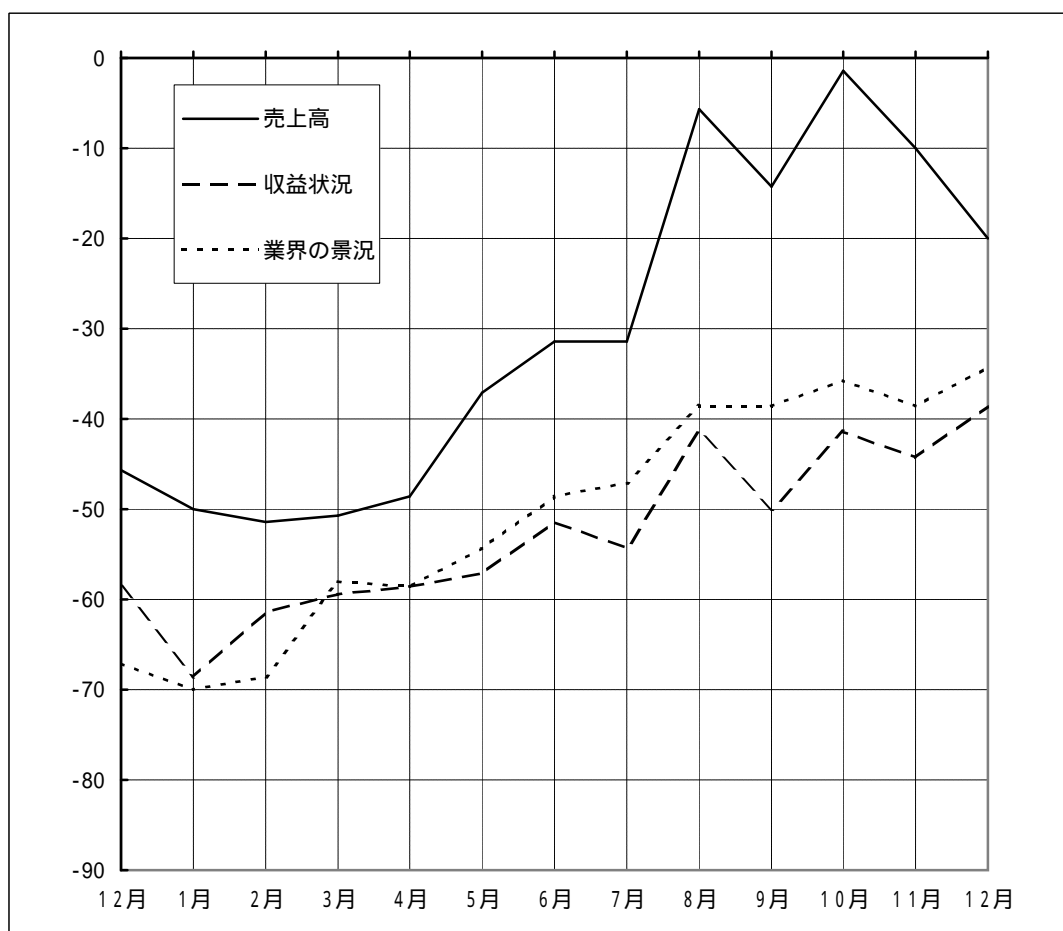


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値 平成14年12月～平成15年12月

単位:ポイント



平成14年 平成15年

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	-45.7	-50.0	-51.4	-50.7	-48.6	-37.1	-31.4	-31.4	-5.7	-14.3	-1.4	-10.0	-20.0
収益状況	-58.6	-68.6	-61.4	-59.4	-58.6	-57.1	-51.4	-54.3	-41.4	-50.0	-41.4	-44.3	-38.6
業界の景況	-67.1	-70.0	-68.6	-58.0	-58.6	-54.3	-48.6	-47.1	-38.6	-38.6	-35.7	-38.6	-34.3

12月のDI値をみると、「売上高」が前月より10ポイントの悪化し、マイナス20%に推移。「収益状況」においては5.7ポイント改善し、マイナス30%台に改善、「景況」は前月より4.3ポイント改善し、マイナス30%台を継続中。ここ3ヶ月の傾向値をみると中小企業の業況は、一進一退の様相である。

業種別の「景況」をみると、製造業全32種中、増加4、不変19、悪化9であり、前年同月より悪化が12減少した分、好転3、不変が9増加。「食料品」「印刷」「一般機器」で好転した。また、非製造業では、全38種中、好転0、不変19、悪化19であり、前年同月より悪化が10、好転が2減少した分、不変が12増加。主に「卸売業」「建設業」で不変の割合が増加した。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「一般機器」の一部では安定した受注の確保や産官学の産地振興策の取組みの報告があったが全体的に製造業では、受注低迷や原材料価格の上昇が収益面を圧迫し、厳しい状況が続いている。また、「建設業」の一部では売上増加としたが、「商店街」「卸・小売業」を含めた非製造業では、暖冬要因も加えた景気悪化による消費低迷や仕入値の上昇で収益を圧迫し、厳しい状況が続いている。総体的にも業種を問わず価格競争及びデフレの影響の他、先行きの不透明感を危惧する報告等依然として厳しい状況下にあることが窺える。